

2010年2月17日プレスリリース

参照番号：1294

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1294>

## 社会的責任に関する ISO 作業部会のリーダーシップが ISO 26000 原案の投票結果を見定める

社会的責任に関する ISO 作業部会 (ISO/WG SR) のリーダーシップは、文書を最終国際規格案 (FDIS) の段階へ新たに進めるべきか否かを判断するにあたり、現在、**ISO 26000 (社会的責任に関する指針)** の照会原案 (DIS) の賛成票の結果を分析している。

ISO メンバーである標準化機関 (NSB) による投票は、2月14日に締め切られた。「P メンバー」として ISO 26000 の開発に参加している ISO メンバーの3分の2以上が、FDIS 段階への移行に賛成票を投じ、反対を投じたのは、全ての ISO メンバー (ISO/WG SR に参加していないメンバーも含む) の4分の1以下であった。DIS のコンセンサス可決には、ISO/IEC 専門業務用指針によって2つの数値基準が規定されている。

しかしながら、最終的な結論を導く前に、ISO/WG SR リーダーシップは、ISO メンバー及びリエゾンの立場で WG に参加している組織からのコメントを含めて、その結果をさらに分析する予定である。これらのリエゾン組織は、ビジネス、消費者又は労働者を代表する団体であり、政府間組織と非政府組織の両方を含んでいる。それらは、投票権は持たないが、ISO 26000 の開発に参加し、開発中の文書にコメントすることができる。

投票結果及びコメントは分析され、最終的な決定が2月下旬になされる見込みである。

もし、結論が肯定的であれば、FDIS とするための合意に基づく修正がされた後、FDIS は、2010年の第3又は第4四半期に発行される予定である。FDIS の本文は、2010年5月のデンマークのコペンハーゲンで開催される次回 ISO/WG SR 会議の前に準備することは出来ない。ISO 26000 の発行の目標時期は、2010年末となっているが、そのスケジュールはかなり厳しく、コペンハーゲン会議で再度この期日を見直す必要があるかもしれない。

ISO 26000 は、主要なステークホルダー・グループの代表エキスパートの国際的なコンセンサスに基づいた、調和の取れた、国際的に関連のあるガイダンスとなり、世界中に社会的責任のベストプラクティスの実施を奨励するものとなるであろう。ISO 26000 のガイダンスは、既存の公的及び民間セクターの SR イニシアティブによって開発されるベストプラ

クティスを引用している。

ISO/WG SR は、ISO メンバー (NSB) 及びリエゾン組織の専門家で構成されている。メンバーは、各 NSB 最大 6 名の専門家、各リエゾン組織 2 名の専門家に限られている。合計で、作業グループは 94 の ISO メンバー国及び 42 のリエゾン組織から 436 名の専門家及び 195 名のオブザーバーから成る。

- ISO 26000 及び社会的責任に関する ISO 作業部会の詳細については、専用の Web サイト [www.iso.org/sr](http://www.iso.org/sr) を参照してください。この Web サイトには、ISO の SR イニシアティブの背景について説明した文書、作業の進捗状況及び実施方法に関する文書及びプレスリリース、WG SR のメンバーシップ及び構成、ISO 26000 の開発に参加する方法、ニュースレター、開発スケジュール、FAQ、問い合わせ先などの情報が掲載されています。これらの情報の多くは、複数の言語で入手することができます。
- DIS を含む作業文書は、[www.iso.org/wgsr](http://www.iso.org/wgsr) で入手することができます。